

こころ育てる絵本との出会い

まがちゃん通信

2019 10 - 11 vol. 58

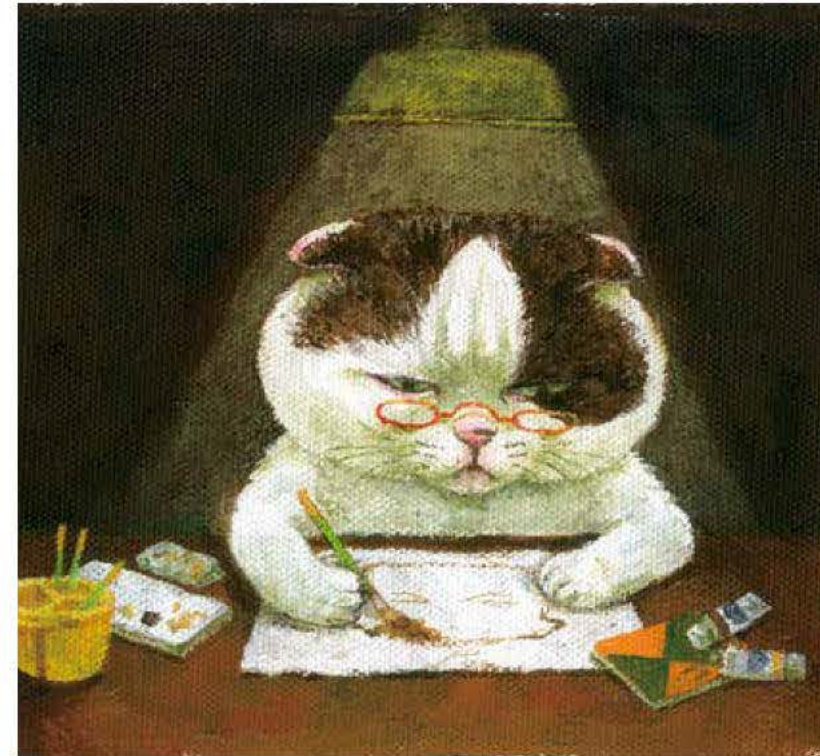


絵本作家インタビュー 町田尚子

特集 絵本の里づくり

まちだ 尚子

「描きすぎない」「ことを
こころがけ
「伝えたいこと」を
持たない



町田尚子(まちだ なおこ)プロフィール

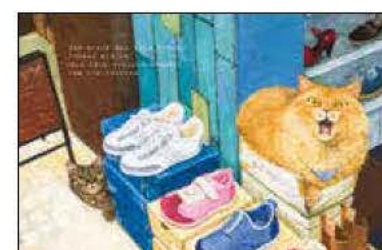
1968年東京都生まれ。武蔵野美術大学短期大学部卒業。
絵本作品に『いるの いないの』『あずきとぎ』(作・京極夏彦 編・東雅夫/岩崎書店)、『だれのものでもない岩鼻の灯台』(文・山下明生/絵本塾出版)、『さくらいろのりゅう』(アリス館)、『たぬきの花よめ道中』(作・最上一平/岩崎書店)、『なまえのないねこ』(文・竹下文子/小峰書店)など。2019年9月下旬に、こぐま社より『ねことねこ』発売予定。
<https://naokomachida.wixsite.com/index>

絵本原画展開催
令和元年9月21日(土)~11月21日(木)

原画展示絵本



『さしきわらし』(汐文社)
遠野の旧家では、座敷わらしが住むと伝えられる家は少なくない。この神がいる家は、栄えるといわれる。十二、三歳くらいの子どもの姿だという。ある日、娘がふたり、村から出ていった。そのあと起きた悲劇とは...



秋のギャラリーでは、美しく妖しい絵がお話の怖さをいっそう高める『さしきわらし』と吸いこまれそうなメロン色の瞳を持つねこが魅力的な『なまえのないねこ』の2冊をご紹介します。

町田尚子先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは?

いつのまにか「絵本作家」と言われるようになったなあという感じなので、「いつになった」のかもよくわからないです。

画材は何を使っていらっしゃいますか?

アクリルガッシュです。

今回、原画を展示する絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

『さしきわらし』

取材のために初めて遠野へ行きました。さしきわらしには会えませんでした。絵本に描いた白い馬やカラスとは、実際に遠野で出会いました。

『なまえのないねこ』

最初、猫以外に、「商店街」を含めた広い視点で捉えて描き始めました。でも、それだと全体的にぼやけてしまう気がしたので、途中で「猫」に焦点を合わせることにしました。4枚ほどボツにしてしまったけれど、描きなおして良かったと思っています。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は?

『だれのものでもない岩鼻の灯台』

少しずつ絵本の依頼をいただくようになった時期でした。同時に、依頼してくださる方の期待に応える絵を描き続けなくてはならないという未来に、息苦しさを感じていました。そんな時に、山下明生先生がこのお話を書いてくださいました。そして「もつと肩の力を抜いて描いてごらんさい」とおっしゃいました。「肩の力を抜いて描く」ということを掴むまで時間がかかりましたが、今もこうして絵本を描いていられるのは、山下先生のおかげだと思っています。

絵本をお作りになるときのこだわりは?

こだわりというか、こころがけていることは、「描きすぎない」ということです。

絵本を通じてお伝えになりたいことは?

「伝えたいこと」を持たないことです。つまりは、「ご自由に!」ということをお伝えたい、とも言えるかもしれません。

今後どのような絵本を描いていかれますか? 特に方向性は決めています。

ご趣味についてお聞かせください。特にないです。

お好きな言葉を教えてください。

「隙あらば猫」

絵本のどこかにちよいちよい猫が登場させていることを指して、「町田さんは、隙あらば猫だね」と絵本作家の吉田尚令さんに言われました。以来、それを座右の銘にしています。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

小さな子どもは、「この作家の絵本だから読む(買う)」という選び方をあまりしないと思います。大きくなった時に、「懐かしい!」と手に取った絵本がわたしの描いた絵本で、「これ好きだったな」と思い出してもらえたら本望です。「ファンです(ファンでした)」と言ってもらえるまでに10年以上かかる、このゆっくりとした時間の流れ方って、絵本独特で素敵だと思います。いつか、「小さいころ、この絵本を読みました」と声をかけていただけたら嬉しいですね。

町田尚子先生、ありがとうございました!

町田尚子先生のサイン入り 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年令、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
あて先 〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
町田尚子 サイン本プレゼント係
締め切り 令和元年12月10日 消印有効
※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『なまえのないねこ』
(小峰書店)

『なまえのないねこ』(小峰書店)
靴屋のねこは「レオ」、本屋のねこは「げんた」、八百屋のねこは「チビ」。いぬにも花にも名前がある。「ばくもなまえほしいな」と、名前を探しはじめたねこ。公園のベンチの下で雨やどりをしている、やさしい声がかけられます。



おしま 国際手づくり絵本 コンクール2019

結果発表

たくさんのご応募ありがとうございました!



他、奨励賞10名、入選28名の皆様、おめでとうございます。
(応募総数222点)



『おならにいろがついてたら』
[一般]
ひろせ ひろみ



『ガオガオといっしょ』
[一般]
たさき きょうこ



『立体ガイド絵本 横浜の建物をめぐる1,2』
[しかけ]
小松原 健



『NPO法人 ゴミ漁船』
[しかけ]
DAIGO MIYATA



『うさぎ大工におまかせください』
[一般]
小林 ゆたか



『さぶとねこまた』
[一般]
ただ みつひろ



『十八番—OHAKO—』
[しかけ]
長澤 千恵美

創作教室レポート

第3回「ちりりんりん」 7/6・7

多角形のフレームとカラフルな鉄琴を使っておオリジナル風鈴づくり。フレームには思いの絵や模様を描いたトレーシングペーパーを貼り付けます。裏からも透けて見えるので、どの方向から見ても楽しい風鈴になりました。花火やスイカ、ひまわり、海などを描いた夏らしい作品が多く見られました。

お絵かきがメインの簡単な工作ですが、ちょっと難しいところも。紐を結ぶのが難しかったけどできるようになった、お絵かきよりも結ぶのに夢中になっている我が子に驚いたという声も。創作教室に参加することで、得意なことを見つけたり、できなかったことができるようになったり、親子で様々な気づきや喜びを感じていただけたら嬉しいです。

涼し気な風鈴ができました。お部屋の窓の近くにかざって音を聞きたいです。
(ほのかさん・11歳)

絵を描くところが楽しかったようです。普段仕事で忙しいパパと一緒にすることができて良かったです。
(かんせいさんのお母さん)

*創作教室は親子で「つくる」ことを楽しむ教室です。登録家族募集中!

イベントレポート

福田りゅうぞうファミリーコンサート 6/23



福田りゅうぞうさんは全国の親子コンサートや研修会などでひっぱりだこのあそびダンス作家。この日も前日の和歌山県での公演を終えて絵本館に駆けつけてくださいました。

福田さんのモットーは「体を動かすと楽しいね!体が踊れば心も踊る。心が躍れば笑顔になれる」。その言葉どおり、いっしょにジャンプをしたり、ダンスをしたりすると子どもも大人もあつという間にみんなキラキラの笑顔に!会場の子どもたちと掛け合いを楽しみながら「アキレスケンタウルス」などのぐる回転ずしなどの人気曲を披露し、会場を熱気と笑顔でいっぱいしてくれました。



特集 / 絵本の里づくり



清水幸喜
剣淵町絵本の館 館長

北海道北部、名寄盆地の南端に位置する剣淵町。人口約3,100人、農業を基幹産業としている町です。この小さな町で「絵本で町おこしをしよう」と立ち上がった40歳前後の青年達。今から31年前の1988(昭和63)年6月に「けんぶち絵本の里を創ろう会」を結成しました。1970年代後半から人口が減少、過疎化が徐々に進行していましたが、「町を有名にして活性化を図りたい、このままでは人口が減る一方だ」というような思いを抱いていたときに出会ったのが「絵本」だったのです。

町では、旧役場庁舎を「絵本の館」に改修し、絵本1万冊を購入、書架等を整備。活動の拠点ができたことにより、絵本の読み聞かせや絵本原画展、講演会など積極的に開催されました。さらに何か大きなイベントをやりたいとの思いから1991年「けんぶち絵本の里大賞」が創設されました。前年度に出版された絵本で、出版社等から応募のあった絵本の中から自分の好きな絵本に投票するというもの。毎年300点近い絵本の中から大賞が決まり、入賞者には賞金のほか、剣淵町の農産物・特産品が副賞として贈呈されます。

絵本の里が始まってから数年間は、「絵本にそんなにお金をかけて、町にどのよ

うな恩恵があるのか」という町民の声もありましたが、町外の方から「剣淵町は絵本で有名になってきたね。テレビや新聞で見たよ」と言われることが多くなり、批判の声も少しずつ無くなっていきました。絵本の話になります。絵本の館には年間約3万人の方が来館します。年齢は幅広く、見学体験メニュー(パネルシアター、読み聞かせ、工作等)を楽しめます。ある時、40代後半から50代の女性方の団体来館されました。絵本「おこだでませんように」(くすのきしげのり・作、石井聖岳・絵、小学館)の読み聞かせをしました。涙を浮かべておられました。既に子育ては終わっておられる方でしたが「私もおこだでませんように」と、当時を思い出していました。私は館内ガイドを終えてから出来るだけ絵本や紙芝居の読み聞かせをするようにしています。ある方は「大人になってから読み聞かせをしてもらえとは思わなかった」とおっしゃいました。今の時代、絵本は子どもだけのものではなく、大人にとっても大事な物となっています。

子どもも大人もみんなで「絵本」

私のおすすめ絵本

『ぼくは海になった』

うさ/作・絵
くもん出版



東日本大震災で亡くなったチョビと家族の物語。災害等が発生すると避難所が設置されますが、ペット同伴の避難所が少ないのが現状です。動物の命の大切さを伝えています。

『おこだでませんように』

くすのきしげのり/作
石井聖岳/絵
小学館



小学校に入学した1年生の男の子。学校でも家でもおこられて。七夕の日に短冊に一番のお願い事を書いた。そのあと先生は…。本当はやさしい子なのですね。

『八郎』

斎藤隆介/作
滝平二郎/画
福音館書店



秋田のくにに八郎という大きな山男がいた。嵐をこわがる子どもがかわいそうなので、大きな山をかついで海に…。嵐をしずめた心温まる一作。

『おばあさんのしんぶん』

松本春野/文・絵
岩國哲人/原作
講談社



どうしても新聞が読みたいと配達を始めたつおに、新聞を読ませてくれる老夫婦がいました。おばあちゃんの葬式の日に思いがけない事実を知ります。優しさ、そして感謝。実話をもとにしたお話です。

『ネコゾメのよる』

町田尚子/作
WAVE出版



ある夜、あつちからも、こつちからもネコたちが集まっています。「まちがない。こんやだ。」ネコだけが知っている秘密…。(原画も素晴らしいです)

『どうぶつ
たいじゅうそくてい』

間かせ屋、けいたろう/文
高島純/絵
アリス館



今日は、動物園の体重測定。パンダとライオンはどちらが重いかな?。読み聞かせでは、質問をしながら楽しく読んでいます。アレ、ぶたさんは…。

12・1月イベント

シアター・パフォーマンスホール
絵本館のクリスマスコンサート

とき/12月8日(日)

料金/大人1500円

出演/竹内祥子ピアノほか

ジャンボかるた大会

とき/令和2年1月5日(日)
※年中・小学3年生まで参加できます。

絵夢の会 カレンダー原画展

とき/11月30日(土)~12月13日(金)

ねこの森 布小物 こぐま

とき/12月14日(土)~12月27日(金)

年賀状展

とき/令和2年1月5日(日)~

1月26日(日)

ギャラリー

宮西達也 絵本原画展

とき/11月23日(祝・土)~

令和2年1月26日(日)

展示原画

「おまえうまそうだな」(ポプラ社)

「キラキラッ」

ほしがかがやきました(ポプラ社)

